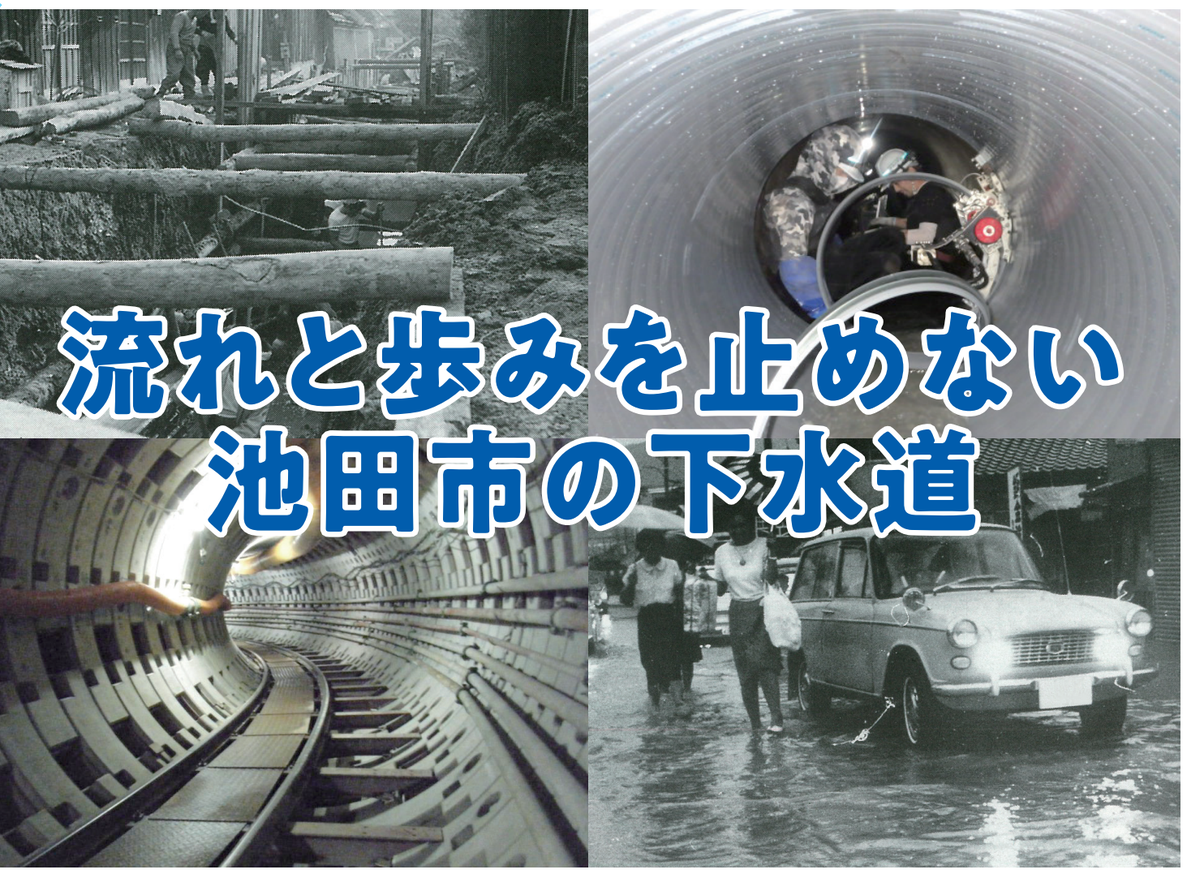
Ikeda AQUA
上下水道部

池田市公共下水道事業認可70周年記念号

水だより

令和6年
2月発行



流れと歩みを止めない 池田市の下水道

2023ミス日本「水の天使」竹田聖彩さん

自然の恵みにもたらされる水循環と豊かで清廉な水を守る人々の心と技に触れ、それを通じて培った知識と体験を広く伝え、社会に参加する人々の水への意識を高めることを目的として活動しています。

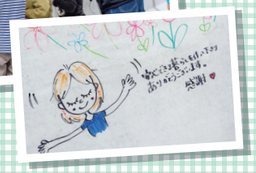
池田市ではこれまでに阪神・淡路大震災や集中豪雨による浸水被害を経験、さらに近年は自然災害の激甚化・頻発化が叫ばれる中、市民の生活を守るため、対策を進めてきました。また、池田市は古くから下水道を整備してきたため、施設の老朽化対策も同時に進めていかなくてはいけません。
市民の皆さまを災害から守り、また豊かな自然環境を未来の子どもたちに残すための池田市の取り組みを紹介します。

発行：池田市上下水道部　大阪府池田市大和町1番10号
https://www.city.ikeda.osaka.jp/jogesuido/index.html　TEL.(072)754-6069(直通) FAX.(072)751-3852

池田市上下水道部 検索

安全安心に暮らせる池田市のまちづくり

公共下水道事業認可70周年記念事業として、池田市の浸水対策をより身近に知ってもらうため、神田貯留施設の工事見学会を令和5年6月24日に開催し、たくさんの方々にご参加いただきました。



水の天使からのメッセージも

参加した皆さまからの感想

- もう二度と見ることができない場所に来られて、よかったです。池田市がこんなに災害対策をしてくださって、安心です!
- 日頃気付かない所でこんなにも対策をして頂いていたということが分かりました。
- 親子でとても楽しめました。らくがき、トンネルが特に楽しかったです。
- 最近、下水道のことに興味があったところにたまたまイベントの事を知って、参加しました。見学会は100点満点。普段入れない施設の中に入れて楽しかったです!
- 浸水対策についてよく分かりました。子どもも理解しやすかったと思います。
- 近くで工事をしていても、何をしているのか分からなかったので、見学会があればみんなに説明できて、必要だから工事をしてると言えるので良かったです。
- 今後大雨が降った際に貯水施設の事を思い出しそうです。
- 浸水の経験もあったのですごくありがたいと思いました。
- 最初にヘルメットと軍手をつけたので、工事現場がきけんなんだと分かりました。

近隣の神田小学校の皆さまにも見学していただきました。

大雨による浸水対策に取り組んでいます

池田市の下水道事業は浸水対策から始まって、下水処理場には雨水を排水するための雨水ポンプも備えています。

平成6年～平成11年には、集中豪雨によって浸水する被害が度々ありました。

そのため、平成15年に雨水を約1万㎥貯留できる八王寺川雨水増補幹線、平成22年に約3500㎥貯留できる石橋第1増補幹線の整備を行いました。

このような貯留管整備の効果もあり、平成11年以降は大きな浸水被害はなくなりましたが、平成26年に時間最大雨量115㎜の豪雨により再び浸水被害が発生しました。

そこで、さらなる対策として、雨水調整池の整備やバイパス管の築造、浸水被害が多かった神田地区では貯留施設の設置（令和5年度に完成予定）を行い、全部で約4万㎥（プール約135杯分）を貯留する浸水対策整備により年々増加する大雨の被害を軽減する対策を行っています。

今後も池田市では、大雨からまちを守り、市民の皆さまに安心して住んでいただけるまちづくりを進めていきます。

池田市の下水道床上浸水対策計画についてはこちら

公共下水道事業認可70周年を迎えて

池田市上下水道事業管理者
増井 文典

池田市は猪名川と共に育ってきたまちで、水の恵みによって発展してきました。

その中で、下水道事業にもいち早く着手し、国の下水道施策が本格化する前の昭和28年に、密集市街地の浸水対策として事業を開始し、令和5年度で70年となります。

その間の下水道の普及は、猪名川の清流を守ることに大きく貢献してきました。

池田市は10万人都市ではありますが、浄水場と下水処理場の両方を持っており、非常にすばらしい水循環システムを市内で構築できております。

皆さまの安全・安心な暮らしを支えるこのシステムを次の世代につなげていくことが私たち池田市上下水道部の使命と感じております。

人口減少社会を迎え、今後の下水道事業のあるべき姿というものを真剣に考え、「事始めのまち」の気概を持って、この転換点を新たなチャンスと捉えて事業を進めてまいります。

「管更生工法」の採用で老朽化対策と地震対策に取り組んでいます

池田市では70年前から下水道事業を始めているため、下水道管や施設が古くなってきており、老朽化対策が課題となっています。特に老朽化した管を掘り起こして新しい管に取り替える工事では、長期間に及ぶ工事で、工事費も高くなり、皆さまの排水を止めるなど生活に支障が出ます。そこで、池田市では、平成28年度から、老朽化対策や地震対策として「管更生工法」を採用しています。

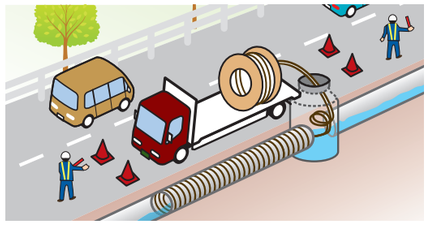
この工法により、同規模の取り替える工事と比較して、工期は約40％に短縮することができます。また、産業廃棄物の発生がほとんどなく、工事における二酸化炭素の排出量を約30％に抑えることができます。

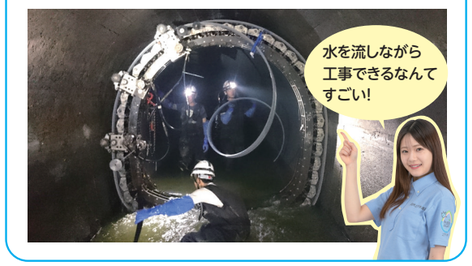
これからも池田市では、老朽化した下水道管の更新や地震対策を計画的に進めていきます。

管更生工法とは

古くなった管の内側から新しい管をつくる技術で、マンホールから材料をすべて搬入するため、道路を掘る必要がありません。さらに、汚水を流しながらでも工事することができるので、生活排水を止める必要がなく、生活への影響も少なくすることができます。

また、使用する材料によっては耐震性を向上させることもできるため、地震対策にもなります。





池田市下水処理場では環境負荷低減に取り組んでいます

市民の皆さまが使った水は、池田市下水処理場で毎日きれいにしてから猪名川へ放流しています。

過去には生活排水などに含まれる窒素やりんが原因で、プランクトンが大量発生する「赤潮」が全国的に問題となったことから、池田市では窒素やりんを除去できる高度処理施設を導入しています。

この高度処理施設で処理された水は、施設の冷却水や植木の散水、阪急池田駅前にある「池田せせらぎモール」に送水し再利用しています。

また、国土交通省が最新技術を実証研究する『B－DASHプロジェクト』に参画し、省エネ・創エネ効果を最大限発揮する汚泥処理施設や、ＩＣＴのクラウドを活用した効率的な維持管理システムも導入しています。

さらに池田市下水処理場では、省エネ型機器の導入や運転方法の改善・工夫を積極的に行っており、排出される温室効果ガス（二酸化炭素換算）は10年前の平成25年に比べて50％以上削減できています。